

横浜国際港都建設審議会

第2回総会

平成17年10月5日（水）

<欠席>内海麻利委員、岡部明子委員、辻琢也委員、
長谷川まや委員、樋口美雄委員、福田幸男委員

議事

【事務局】 大変お待たせいたしました。ただいまから横浜国際港都建設審議会第2回総会を始めさせていただきます。

本日も、会場内に傍聴席及び記者席を設けまして、審議を公開して行うこととさせていただきますので、ご了承くださいませようよろしくお願いいたします。

なお、本日は横浜市副市長の金田が出席させていただいておりますので、最初に一言ごあいさつをさせていただきたいと思っております。

【副市長】 横浜市副市長の金田でございます。本日は大変お忙しい中、横浜国際港都建設審議会第2回総会にお集まりいただきまして大変ありがとうございます。

審議会におかれましては、6月21日に諮問を行わせていただいたところでございますが、その後約3か月半の間に、各部会や起草委員会で活発なご審議をいただいているところであります。

これから3つの部会が相互に連携いたしまして、これまでの議論の集約などを図るためにも、きょうの第2回総会は1つの大きな節目に位置づけられるのではないかと考えております。これから答申の作成に向けまして、委員の皆様にはさらなるお骨折りをいただくこととなりますが、今後ともどうかひとつよろしくお願い申し上げます。

【事務局】 それでは本日の出席委員数をご報告させていただきます。委員総数41人、本日ご出席いただいている委員の方が35名、委任状を4名の方から提出していただいております。

よって、横浜国際港都建設審議会規則第4条によりまして会議が成立していることをご報告いたします。

それでは、これから先の会議の進行につきましては伊波会長にお願いしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

【会長】 議事に入ります前に、一言ごあいさつを申し上げたいと存じます。

本日はご多忙のところ、ご出席を賜りましてありがとうございます。皆様ご承知のとおり、この審議会は6月21日に開催されました第1回総会において、市長から長期ビジョンの策定についての諮問を受け、これまで各部会を3回、起草委員会を1回開催し、活発なご審議をちょうだいしているところでございます。皆様のご熱心な審議につきまして、心から感謝を申し上げたいと存じます。

さて、本日の総会におきましては、次第にもありますとおり、これまでの各部会の審議状況についてご報告をいただくとともに、「第1回起草委員会とりまとめ」について審議を行いたいと思います。

各委員の皆様方にご協力をいただきまして、本日の総会が成果あるものとなりますように、よろしくお願ひしたいと思ひます。簡単ではございますが、ごあいさつにかえさせていただきます。

それでは議事に入ります。各部会の審議状況報告です。3つの部会の審議状況について、資料としてとりまとめてございますので、事務局から報告をお願いいたします。

事務局から審議状況報告

【会長】 ありがとうございます。それでは次の議題に移りますが、ただいまご報告いただきました各部会の中間とりまとめをもとに、起草委員会で「第1回起草委員会とりまとめ」を作成しております。

ここで事務局から資料説明と、明石起草委員長からご報告をお願いしたいと存じます。

事務局から資料説明

【会長】 続いて、明石起草委員長よりお願いいたします。

【起草委員長】 ただいまご紹介いただきました明石でございます。起草委員会の委員長として、総会と起草委員会との密接な協力のもとに、横浜市の基本構想となる長期ビジョンをまとめていくことができれば大変に幸せだと思っております。

ただいま事務局から説明がございましたとおり、起草委員会における論点や、これからさらに審議を深めていくべき点について、資料4の左下の囲みのところに指摘してございます。

去る9月13日に、3つの部会の部会長さんと一緒に、これまで各部会において横浜の将来構想をどうするべきかという視点から行われた議論を非常にうまくとりまとめた、3つの部会の中間とりまとめを踏まえ、こういう点はもう少し膨らませたほうがいいのではないかとか、こういう点が少し欠けているのではないかなど、3つの部会の審議に基づき

ながら全体像をきちんとまとめていこうという視点で活発な議論を重ね、基本的にはコンセンサスが得られたと思いますし、事務局ともうまく連携してまとめてまいりました。

横浜の長期ビジョンというものは、やはりほかの都市の長期ビジョンと同じであってはいけないわけで、少子高齢化などの共通の課題を取り上げるに当たっても、やはり横浜らしさ、横浜の独自性とか、ほかの都市との比較において比較優位があると思われる点、それから戦略的にこれからも優位性を維持していくべき点などについて、幅広い視野のもとに、より具体的な審議をこれから行っていこうではないかということが語り合われました。

また、国際都市横浜ということがよく言われます。耳に心地よいスローガンではありますが、その内容は具体的にどういうものであろうかということにつきましても、理念をより明確にする、肉づけをもう少しはっきりさせていきたいということ起草委員会で話し合っております。

それから、横浜のこれからの活性化をどのように図っていくかという視点からみた場合に、目に見えるハード面の充実もしかるべきことではありますが、目に見えないソフトの面、知的活動の集積を進めるべきではないかという打ち出しを強くしていければ、ということも話し合われました。

それから、これから労働力が減少していくという我が国の一般的な問題があるわけですが、その観点からは、これまでややタブー視されてきたことではありますが、外国人労働者の問題や現在の定年退職制度、このようなものが、高齢化が進む中でどのように見直されるべきなのかということも考える必要があります。これは悩ましい問題でありますし、また中央政府の政策とも関連することから、横浜が何らかの方針を打ち出しても、必ずしもそれが実現するものではないと思いますが、そのようなものについても我々の時間の許す限り、一緒に構想を練り、問題点のあり方を探っていきたいと考えています。

それから、防災や防犯の問題。これは都市生活の根本的な安全や安心というものに関係するわけですが、このような視点もある程度加味していきたいと考えております。

それから、情報化の進展がもたらす市民生活の変化ということも、これは避けることのできない問題でありますし、環境問題の視点も見逃すことは当然許されません。これに関連しましては、横浜の都市としての活性化と景観の維持といったもののバランスをどのように考えていくかという、これまた難しい問題にも触れざるを得ないのではないかと思います。

それから市民参加の視点、これは各部会からの問題提起の中にきちんと盛り込まれてお

りますが、それに関しては、単なる参加や意見・要望などを行うだけではなくて、公共の担い手としてどれだけ広い視野に立ち、責任感を持って市の運営に参画できるのか。そのような視点から、これからの市民の意識として、単なるサービスの受け手、顧客としての意識のみならず、市を形成していく主体、英語で言えばストック・ホルダー、株主に当たると思いますが、そのような意識も必要になるのではないのでしょうか。

このように、これからも起草委員会として事務局と密接に協力し合いながら、各部会の中間とりまとめを全体的に見直し、いろいろな点を加味したり、全体的観点から必要であれば、ある程度再構成もしながらとりまとめていきたいと考えている次第でございます。

【会長】 ありがとうございます。この際、ただいまご報告いただきました「第1回起草委員会とりまとめ」につきまして、ご質問やご意見などございましたらご発言願いたいと存じます。

なお、この後、この内容について審議を行う第4回の各部会の開催を予定しておりますので、ここでは全体的なことについてのご意見、ご質問をお願いしたいと存じます。

それでは、何かございましたらどうぞご発言願いたいと存じます。

【委員】 せっかくの機会でございますし、この長期ビジョンを作成していく上で大きな節目になると思いますので、この資料4につきまして、3点ほど意見を申し述べさせていただきます。

まず、この枠組み、「全体都市像」、「都市像」、「施策の方向」という形でございますが、ある意味では言葉の問題かと思いますが、「施策の方向」の施策という表現は、通常ならば行政用語だと思うのです。

そもそもこの長期ビジョンは、横浜のあるべき姿、未来像を形づくっていかうということで、その中で新たな公共の創造という部分も、私たちの部会ではありませんでしたが、語られていたと思います。この長期ビジョンというのは行政のためのビジョンではないだろうと思っておりまして、この「全体都市像」なり「都市像」なりを形成していく方策としては、行政だけではなく市民活動や経済活動そのものも方向として掲げられるのだろうと思うわけです。

そうであれば、「施策の方向」というよりは、「具体化の方向」とか「具体策の方向」とか、より一般市民も含めたイメージの表現となっていくべきではないかと思います。それがまず第1点です。

2点目は、「横浜らしさ・アピール」ということが「全体都市像」の冒頭にあるわけです。

が、横浜らしさをどう考えるかということです。

他都市の方々から見れば、横浜というのは明治期からの外国文化の窓口、異国情緒性というような、ある意味では文化性や芸術性に横浜らしさを感じられる方が多いわけであります。実際に、明治期には伊勢佐木町や馬車道を中心に芝居小屋が12か所もあったという、極めて芸術性の高い、文化性の高い都市だったわけです。

このようなことから、「横浜らしさ」と言うときには、その芸術性・文化性をいかに高めていくかということも観点として入れていかないと、横浜が成熟した都市、快適性・心地よい都市となるという意味では、少し欠けてくるのではないかと思います。

ただ、この芸術・文化ということについてこれまで議論してこなかったのは、おそらく3つの部会という、当初から審議分野別に分けてしまいましたので、そこで語られることのできない部分ができてしまったのではないかと思います。

3点目は、先ほど明石委員長もおっしゃっていましたが、情報化の進展ということでございまして、高度情報化社会やユビキタス社会とよく言われているものについてでございます。

これは横浜が情報の発信・受信、市民生活・経済活動において、情報をいかに流通させることができる都市になるか、情報の流通についてどういう都市になっていくべきかということをしっかり示していかないと、都市間競争も含めて世界都市として地位を確保していくためには、20年後を考えるととても太刀打ちできない都市になっていってしまうのではないかと思います。

以上3点、ご意見を申し述べさせていただきました。

【会長】 ただいまのご質問について、起草委員長、いかがでしょう。

【起草委員長】 ただいまの3点は、大変適切なお指摘であったと思います。これは事務局も考えていただきたいと思いますが、第1点の、「施策の方向」は「具体化の方向」のような表現にしたほうがいいのではないかというご意見ですが、私も賛成であります。

それから第2点の、「横浜らしさ」というものには当然、文化・芸術の面も反映されなくてはいけないというご指摘も、全くそのとおりであろうと思います。

第3の点は、これは私自身も触れさせていただきましたが、我々としてはこれについても今いただいたご意見を何とか答申案に反映させる方向で努力したいと考えております。

【会長】 他にございますか。どうぞ。

【委員】 私は第1部会に所属しております。この資料を見ますととてもよくできてい

るのですが、「全体都市像」のところに、第1部会の都市像の方向性があまり入っていないのです。ですから、第1部会の都市像ももう少し「全体都市像」の中に入れていただきたいと思います。

具体的には、横浜は確かに国際都市横浜ということもアピールする点のひとつではあるのですが、それ以上に、個人が個性と能力を十分に発揮してしあわせに暮らせるということが、市民としては一番大事なことだと思いますので、そのようなこともどこかに入れていただけたらと思います。もう少し、個性や意欲に応じて十分に能力を発揮できる都市のような、個人を重視する視点からも、何らかの記載が必要ではないかと思います。

【会長】 起草委員長、いかがでしょうか。

【起草委員長】 今のご指摘についてですが、確かに、この2つの「全体都市像」を読みますと、第1部会で審議されたいろいろな観点の反映が不十分であるという感じはなきにしもあらずだと思います。何しろ「全体都市像」は、まさに全体像のみを表現しようとしており、ある意味では、いろいろな観点を総合するという視点から、短くかいつまんで、簡略化しております。

第1部会の観点である、少子高齢化社会の到来や、市民の生活への期待、その他の見地は、当然、ほかのいろいろな都市像の基礎にもなっていることでありますから、今のご指摘を踏まえながら、最終的な記述においてはそのような視点を見失わないようにしたいと考えております。

【会長】 他にございますか。どうぞ。

【委員】 第1部会に所属しております。2点ほど、私の個人的な意見があります。こちらの都市像を拝見して、非常によくまとまっているというのが感想で、「さらなる論点」というところにありますように、横浜の独自性であるとか比較優位ということについて今後どういうふうを考えていくべきなのかということについて、私自身の感想といたしますか、意見を述べさせていただきたいと思います。

こちらにある「都市像」の内容は、それぞれ1つずつは非常に素晴らしいことが書いてあって、これに反対する人は基本的にいないと思うのですが、実際にこの都市像の目的というかビジョン自体の目的というもの、市外の人にこれから市に来てもらうためであるとか、外国の人が日本で暮らすときに横浜はいいまちだと思ってもらうとか、そういうアピールの目的が仮にあるのだとすれば、やはりそういう人たちがどういうところに反応するとか、どういうところを訴えれば横浜を非常に魅力的に感じてくれるかという視点か

ら、ここに出ているものをもう少し統合したり、絞っていくという作業が必要なのではないかと私自身は思っています。

というのも、例えば企業がある商品を売るときに、いいもので、なおかつ安い価格で、デザインもよくておしゃれでブランドも有名であれば、みんなそれを買うのですが、実際それは不可能で、結局価格を売りにするとか品質を売りにするとか、そういう形でお客さんから見たときに、どこを購買基準にするかという選択をしているわけです。

その視点から見たときに、横浜市外の人がどういう規準で横浜市に住みたいと思うのか。高齢者であるとか子どもを持っている世代とか、いろいろな世代によって違うと思うのですが、そういう目を見たときにどこが横浜の売りになるのか、どういう規準で実際に横浜に住み続けたいと思うのかを考慮して、もう少し絞ったアピールも必要ではないかと思えます。

私自身のイメージでは、例えば子育て支援とか教育とか福祉とか、実際それはほかのところでも力を入れていると思うのですが、そういうところに特に力を入れていますと。

ほかのことをないがしろにするとか、ほかのことは一切やりませんということではもちろんないのですが、外向きないし市民に対するアピールという意味では、ある程度濃淡というか、ここに横浜は力を入れて取り組むということ、もう少し今後は打ち出せるような形のほうが、私自身はアピールとしていいのではないかと思っています。

もう1点は、これは都市像ということではないのですが、私自身の希望というか提案なのですが、できたらこのビジョンの発表と同時ないしはその後に、横浜ならではの目玉的な取り組み、例えば今までで言えばG30でごみを減らすことで環境問題に対して取り組むという、何か目玉になるような取り組みがあったほうが、ビジョンの、それを見た人のイメージのしやすさが全然違ってくるのではないかと思えます。

例えば今回の国政で言えば、郵政民営化をうたうことで改革のイメージをわかりやすくした。これから横浜でも、例えば英語教育に力を入れるでも、公立の学校を能力別にするでも、外国人に参政権を与えるでも何でもいいのですが、何かビジョンを実現するような目玉的な取り組みをやることで、かなりのアピールができるのではないかと個人的には思っております。

【会長】 ただいまのご意見につきまして、起草委員長、いかがでしょうか。

【起草委員長】 ただいまのご指摘は重要な点だと思います。横浜というまちは、確かに、住んでいる人にも、また外から見てもいろいろな魅力にあふれているということは疑

いのないところでありますが、では「横浜らしさ」というものは具体的に何なのだといわれると、なかなかそれをはっきりと言葉にあらわすのは難しい点があると思うのです。

「横浜らしさ」というものには何か感性的なもの、主観的なものも当然入っていると思いますが、できるだけ横浜に住んでいる人の観点に立って、またこれから市外の人たちが住みたいと思うような魅力のあるまちにするためにも、何が横浜らしさの内容なのかを考える必要があります。今いただいた表現を使いますと、目玉的なものは何か。それをできるだけ具体的に打ち出すことが可能であれば、当然、そういうことに取り組みたいと思いますし、各部会においてもさらなる審議を遂げ、起草委員会としても知恵を結集して、限界はあるかもしれませんが、そのようなことをできるだけはっきりさせる努力をしたいと思います。

【会長】 他にございますか。どうぞ。

【委員】 「起草委員会における論点や、さらに審議を深めるべき視点」というところにあります『国際都市横浜』の再定義」というところに非常に関心を持つ1人でございます。

ぜひお教えいただきたく、また議論を深めておきたいと思いますのは、「国際」という言葉の定義なのですが、私の所属する部会でもグローバル化と言っておりますが、この資料の中にも「国際」という言葉と「グローバル」という言葉が混在しているわけです。

もちろん相矛盾するわけではないと思いますが、「国際」というのは、おそらく、国と国との関係というところから出発した言葉だろうと思います。国際と都市、国と都市という関連の中で、どのようにこれをしっかり整理しておくのかということは大変難しいことではありますが、例えば文化は国という単位では定義できませんが、多文化共生の「多文化」という場合においては「多国籍」ではないわけですので、少しその付近全体を整理しておく必要があると思います。

それから、私自身は第2部会におりますから、当然、第2部会の中でも少し論議を深めておきたいと思いますが、今の「グローバル」と「国際」という点、それから例えばこの中にも「地球規模」という言葉が幾つか出てまいりますので、そのような言葉と意味の整理は、ぜひ、20年30年先を考えるなかで、改めてしておかなければいけない出発点ではないかと思いましたので、意見として申し上げます。

【会長】 起草委員長、いかがでしょう。

【起草委員長】 ただいまのご指摘の点は、まさに起草委員会でも指摘されました。「国

際的」とか「国際性」という言葉の持つあいまいさですね。何か耳に心地よいがゆえに我々はよくそれを使いますが、どのような意味で使っているのかということになりますと答えに詰まってしまうことが多いのです。

今のご指摘のように、第2部会でもさらに審議を重ねていただきたいと思いますが、私は実は「国際人」という言葉、私はその典型だと言われておりますが、これをあまり使いたくないのです。何か「国際人」というものが火星人のような特殊な人種として存在するかのように受け取れてしまいますが、実際はそうではないと思うのです。

我が国が生きていく道は国際社会の中の一員としてであります。これから生きていく日本人の一人ひとりが、個性を持ち、アイデンティティを持ちながらも、アジアの中における日本、このアジアという概念もアジア太平洋地域というように広げたほうがいいと思いますが、そのような意識を持ちつつ、美しく言えば地球市民の1人として生きるという意識を当然持ち合わせないといけないと思うのです。

そのようなバランス感覚が実は非常に大事であって、あまりにもグローバル化という言葉のイメージに引きずられると、根なし草の市民になってしまうおそれもある。かといって、日本文化や横浜らしさのみに我々が固執するならば、やや孤立主義的な生き方になる危険もあるわけです。国際化やグローバル化という言葉の定義は、とても難しいですが、頭の中でできるだけ整理しながら、審議をしていきたいと思えます。

今のご指摘のように、国際化というのは国と国とがつき合う関係、グローバル化というのは国境の敷居が低くなって、人の流れ、物の流れ、情報の流れ、お金の流れ、そのようなものが、ますます国境を無視して行われるようになってきたという現実を表現していると思えますし、また、そのような国際化、グローバル化と重複した形で、アメリカ化現象というものもあります。我々はその微妙な違いと、オーバーラップしている点を両方意識しながら議論していかななくてはいけないと思えます。

私も「国際化」、「国際都市横浜」という言葉に少し抵抗を覚えまして、我々はもう少しこれを具体的な、肌で感じられるレベルに引きおろして考える必要があると感じております。

【会長】 他にございますか。どうぞ。

【委員】 今日、それぞれの部会の審議をまとめたものを見させていただいて、非常によくまとまってきているのだな、それぞれの部会の皆様のご意見がうまくまとめられているのだなと思って拝見しておりました。

その中で、全体的に拝見いたしますと、横浜の目指すべき都市像、今回の長期ビジョンの中で目標とすべきものは何か。目標とすべきものは、僕は「幸せを実感できるまちづくり」みたいなことがひとつ大きなキーワードになってくるのではないかと、この資料を拝見して思いました。特に、市民一人ひとりが自己実現をしていくとか、あるいは市民一人ひとりがほんとうの幸せを実感できる、そんなまちづくりというのが、やはり目指すべき都市像なのではないかと感じています。

それぞれの、横浜独自の目標という部分は大切だと思うのですが、これからの20年を考えると、単純に経済的な充足であったり物質的な豊かさであったり、そのようなことではなくて、幸せをほんとうに実感できる世の中、そのためにどういうまちづくりをしていくかという視点も必要かと思います。「幸せ」や、「幸せを実感できるまちづくり」、そのようなことも1つのキーワードとしてどこかに取り上げていただけたらと思います。意見でございます。

【会長】 起草委員長、いかがでしょう。

【起草委員長】 今のご指摘に関しましては、我々の築き上げようとしている都市像の第一点、まさに出発点が、自己実現、「自分のこととして、しみじみと幸せを感じられる横浜というまち」ということであろうと思います。それは複数のところに出てくるわけで、安心社会の実現や教育、暮らし、働き、環境、そのすべてに自己実現、幸せというものは関連していますし、またそのような各論が満たされていないと、幸せという気持ちにはなり得ないと思いますので、それを念頭に置きながら、我々起草委員会としても議論を進めたいと思っております。

【会長】 他にございますか。どうぞ。

【委員】 第3部会に所属しております。市民の立場ということで今回参加しております。一つひとつのことは、もう各部会で十分とはいえないまでも審議がされていますので、一つひとつのことではなく、長期ビジョン全体として、これは文章としてできあがりしました、どこかにしまっておきますというものにならないようにしてほしいと思います。

ここに出ているのは抽象的というよりも、一つひとつはもっともな内容で、すべて読めば「うんうん」と言えるようなことなのですが、それが市民一人ひとりの心に響くものであるか。実践的であり、实际的であり、現実味がある部分も少し入れないと、有識者の方々の中に何人かの市民公募委員を入れてビジョンをつくりましたというだけになる。そのようにならないようにしてほしいということを言いたいと思います。

一つひとつのことは十分な話し合いのもとに決まっていくでしょうが、当たりさわりのない言葉でうまくまとめられたということではなくて、生きた言葉をちゃんと載せて、具体性があり、実際性があり、市民の一人ひとりに響くような長期ビジョンになることをお願いしたいし、私たちもつくっていかなければいけないと思っています。

【会長】 ただいまのご意見につきまして、事務局からお答え願うこともよかろうと思います。

【事務局】 それでは事務局から、今のご意見に対してお答えをさせていただきたいと思います。

まさに生きた言葉で、ほんとうに市民の方々によくわかっていただくようなビジョンにしていくというのは、そのとおりでございます。どこまで現実的なことをビジョンの都市像として具体的に書けるかという部分は、今後、長期ビジョンの内容などを具体化していく次期5か年計画の策定もございますので、そのような個別の計画との関係も出てくるかと思えます。

ただ、文章化して、ただきれいな言葉にしておけばいいということではなく、市民の方々に理解していただくようなものに仕上げたいと思っておりますし、そのような意味合いでは、ただつくったということではなく、それをいかに市民の方々にアピールしていくか、伝えていくかということも大事になります。

そのようなご意見につきましては、例えば市会のほうでもご意見をいただいております。我々事務局としては、今後、つくっただけではなくて、それをいかに市民の方々に理解していただいて横浜市のビジョンとして共有できるか、そのような点にも十分配慮していきたいと思えます。

文章化につきましては、今後起草委員会のほうで、今のご意見も踏まえながら進めさせていただければと思えますので、よろしく願いいたします。

【会長】 他にございますか。どうぞ。

【委員】 第3部会に所属しております。同じく市民公募委員です。今のご意見にも関連があると思うのですが、総会としてのミッションをぜひ発揮していただきたいと思えます。つまり、第1部会、第2部会、第3部会をただ審議しているのではなく、やはり方向づけに対してやっていただいたほうがよろしいのではないかというのが私の意見でございます。

1つの具体的な例としまして、先ほど、「施策の方向」というのは「具体化」というほう

がいいのではないかという意見がありました。それに関して、この20年というものをどのようなスパンで、どういうステップを踏んでやるのか、個々に何か言うのではなくて、どういうプロセスでやるかということを書いた具体的な施策に書いておくべきではないでしょうか。

つまり、無作為のこともあり得ますよね。今までの経験から、20年間のビジョンをつくっているのだけれど実際にはどこにも到達しなかったとか、非常に到達度が低かったということも多々あるのではないかと予想されます。

そういう意味では、こういう具体的な施策の最後でもいいのですが、そういうプロセスをどう踏んでいくかということに関してもビジョンをつくり、それに従って個々の部分を進めていくというようなことを書いたほうがよろしいのではないかという意見です。プラン、ドゥ、何とかというのを市長も言っておられました。私はそれにレスポンスビリティ、責任というのをぜひとも入れて、実行していただけるようなことを、ただ3つの部会の集合論ではなくて、新しい項目を入れていただければと思います。

【会長】 今のご意見につきましては、事務局のほうで十分に意を体していただいて、ご意見として受け取っていただければと思います。

他にございますか。

それでは、他にご発言がないようですので、「第1回起草委員会とりまとめ」についてはこの程度にとどめ、引き続き各部会での審議に供するように取り計らってよろしゅうございますか。

(「異議なし」の声あり)

【会長】 ありがとうございます。

次に、その他でございますが、何かございませんか。

特にないようですので、これをもちまして本日の議事を終了したいと思います。

事務局から何か連絡事項はございますか。

事務局から資料説明・部会場連絡

【会長】 それでは、第2回総会につきましては、これで閉会させていただきます。

各委員の皆様方におかれましては、引き続き第4回部会でご審議をお願いしたいと思いますが、どうかよろしくお願いたします。ありがとうございました。

— 了 —